関東・甲信越ブロック

1.プログラム詳細

10 月 10 日（木）

時間	分	内容
10:00～10:30	30	受付
10:30～10:40	10	開講式 主催者挨拶（内閣府） 来賓挨拶（東京都）
10:40～11:40	60	講演① 「こどもの交通安全防止」 村山　敏夫（国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修）」
11:40～12:40	60	昼休憩
12:40～13:40	60	講演② 「高齢者に対する交通安全の意識づけについて」 鈴木　春男（千葉大学名誉教授）
13:40～13:50	10	休憩
13:50～15:00	70	活動事例発表
15:00～15:40	40	活動事例発表を元にした意見交換会
15:40～15:50	10	講評（コーディネーター） 鈴木　春男（千葉大学名誉教授）
15:50～16:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
16:00		終了

2.講義等の記録

■講演①

国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科
人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修
村山　敏夫

「こどもの交通安全防止」

1,研修の目的

●行動主体感

ほかの誰でもなく、自分がその行為を行っている本人(主体)であるという感覚。

子どもも小さな幼児も、この行為主体感を芽生えさせるかどうかが交通安全に繋がったり、事故のない地域づくりに貢献してくれたりする。

●仲間の雰囲気を伝える「一人じゃない」を伝える

結果的に作らなければならないのは、交通事故のない地域である。子どもだけではなく、子どもに関わる大人や、研修に参加の皆さんのような交通意識の高い方々が、どのように一人じゃないと意識できるのかが大事。

●楽しくできる　続けられる　幸せでいられる

誰かにやらされているのではなく、自分でやりたくて選択して活動しているならば、幸せに繋がる。

2,活動事例の紹介

●自動車販売店の取組み

ホンダカーズ新潟が主体となり、交通事故のない地域づくりを目指した活動が行われた。販売店の支店長クラスの社員が集まり、二泊三日の合宿を通じて「交通事故をなくす」という共通の目的を設定し、議論を重ねた。合宿では、ライバル関係にある販売店同士が協力し、具体的なアイデアを出し合い、地域に根ざした活動を計画した。

●地域住民や学生との協働

ホンダカーズ新潟は、警察や JAF、新潟大学と連携し、地域住民や学生を巻き込んだ活動を展開した。その一例として、大学周辺地域でのゴミ拾いイベントが挙げられる。ゴミ拾いと交通安全は一見関連性が感じられないが、交通事故の多い場所でゴミ拾いを行うことで、地域住民が自然と交通安全に関心を持つように仕向けるという工夫がなされた。ゴミ拾いを通じて、死角や危険箇所の認識が深まり、交通安全意識の向上が図られた。

●声掛けの実験

金曜日の夕方 7 時にみんなで外を歩きましょうというイベントを開催した。

「金曜日の夜 7 時にダイエットのためにみんなで集まりましょう」という声掛けでは女性が集まった。
「金曜日の夜 7 時に地域の防犯のためにみんなで集まりましょう」という声掛けでは男性が集まった。

「交通安全」となると反応が薄いが、「地域の美化のために」という声掛けでは集まった。
　このように声掛けの工夫を行うことで、交通安全に関心の薄い人々にもアプローチが可能となった。

●活動による成果と意義
本活動を通じて、以下の成果が得られた。
・地域住民や学生の参加促進
　ゴミ拾いやウォーキングイベントを通じて、交通安全に直接関心のない層にもアプローチすることができた。
・交通安全意識の向上
　ゴミ拾い活動を通じて、交通事故の多い場所や危険箇所への認識が深まった。
・企業と地域の連携強化
　ホンダカーズ新潟を中心に、企業、行政、大学、地域住民が一体となった取り組みが実現した。
・主体的な行動の促進
　支店長クラスの社員が自ら行動することで、地域活動の重要性の再認識ができた。

3,子どもの交通事故防止について
　子供の交通事故防止であるが、【子どもへの交通教育】ではなく【子どもと一緒に交通教育】である。相手の視点になる、他者の視点に立って行動できるかといっても、大人になってからでは行動変容が移りにくい。幼少期から教育を行うことは大事なことである。交通安全交通安全に取り組みながら、人を育てる。

●眼窩前頭皮質
社会性に関わる能力を司る部分
（人の表情の読み取り、周囲への共感、適切な社会行動、建設的な問題の解決）
　コミュニケーション能力は幼少時に形成される。子ども達と一緒に交通教育を行っているのであれば、交通安全の教育だけではなく、将来的な社会性も育んでいる。色々な人達と関われる地域になっていく。交通安全だけでなく、持続可能な地域を作るための人間の育みに繋がっていく。

●SDGs と幸福度
園児×大学生×大人、保育園×大学×県警
安全な交通社会への意識　住み続けられるまち
SDGs への取り組みを住民が評価している地域ほど幸せを感じる人の割合が高い。
　→定住意欲も高くなる。
●子どもを取り巻く環境と幸福度
背景：
　日本の子ども達は、現在、幸福度が低いとされている。身体的健康においては世界 1 位の評価を受けており、死亡率の低さや肥満の割合の低さがその証拠である。しかし、精神的幸福度においては大きく遅れをとっており、自殺率の高さがその一因とされる。これには複数の要因が絡んでいると考えられる。

●子ども達の現状

身体的健康：

　日本の医療技術の高さにより、子どもの死亡率や肥満率は世界で最も低い水準にある。

精神的幸福度の低下：

　子ども達の精神的な幸福度が低い背景には、以下の要因が挙げられる。

・人と人とのつながりが希薄化している

・新しい友人を作る能力が低下している

・夜遅くまでスマートフォンやタブレットを使用する生活習慣

・遊びや身体活動の減少

　子ども達が外で遊ぶ機会が減少し、身体的な距離感や視野の発達が十分に育まれていない例えば、ボール遊びやまりつきのような基本的な遊びの能力が低下している。

●子ども達の安全と教育

交通事故のリスク：

　子ども達の飛び出し事故が多発しており、特に 7 歳児に多いことが指摘されている。

　これは、子ども達の視野が狭い「チャイルドビジョン」に起因していると考えられる。

チャイルドビジョンとは：

垂直視野　大人 120°　子供 70°

水平視野　大人 150°　子供 90°

　子ども達の「パーソナルスペース」や「ペリパーソナルスペース」（手が届く範囲）といった距離感の認識が十分に育まれていないことが課題である。

●空間認知能力

両眼視：物を両目で見て遠近感を把握する力

立体視：物を立体的に把握する力

獲得できる時期：3 歳から 5 歳の幼児期に特に伸びる

　→この時期に適切な環境を提供することが求められる。

■講演②

千葉大学名誉教授
鈴木　春男

「高齢者に対する交通安全の意識づけについて」

1．高齢者事故の背後にあるもの

(1)意識と行動のミスマッチが事故を招く（年はとっても、気持ちは若い）

(2)過去の経験にとらわれる

高齢者の交通事故の約半分は自宅から 500m以内、75%は1km 以内で起きている

（活動範囲が家の近くにあることにもよるが…）

「慣れ」がこわい

(3)からだの力も低下する

動体視力の低下、暗順応の低下、反応時間にムラ、筋力の低下など

しかしながら、それらのかなりの部分はちょっとした気遣いで、補えるものが多い

(4)たくさんの情報を同時に処理することが苦手になる

からだの力の低下よりも、こちらのほうが重要なポイント

若い学生との競争（信号だけのケース、そこに音・ブザーを入れるケース）

新しい事実に関心が向かうと、その前の大事な情報を忘れてしまう

cf.二階に忘れ物を取りにいったら、風で書類が散らばっていた→「何をしに？」

（その程度なら許されるが）横断の時、左からの車に気付き一度は止まりながら、右側の路地から出てきて、前を横切った車に驚いたとたん…

できるだけ単純な判断で交通行動ができるように⇒考えごとをしない、複雑な交差点を避ける、あらかじめ地図を頭に入れておく、話に夢中にならない…

(5)生活に充実感・満足感を持っているお年寄りは事故が少ない

「悩みごとのないこと」はとても重要。たとえ悩みがあっても、聞いてくれる家族や友人がいると解消。居住年数の長い、友人の沢山いるお年寄りは事故が少ない

老人クラブに参加しているお年寄りに事故が少ないのも、それが原因の一つ

2．高齢者に対する交通安全指導の視点

(1)高齢者を画一的に見ない

その多様性に注目すべき。高齢者はさまざまな交通環境におかれている

営まれている生活の内容により、抱えている問題も異なっている。つまり、高齢者全体を同じ特性を持った人達として見るのではなく、個の視点から発想していくべき。それぞれの生活実態に応じた交通安全指導が必要

(2)地域に密着した視点が必要

そうした個としての特性を決めるものの一つは、居住している地域の特性

cf.大都市では公共交通機関が主たる移動の手段となっているが、地方小都市では家族や友人の車に乗せてもらう、あるいは自分で車やバイクを運転せざるを得ないといった状況もある

(3)生活構造を中心とした視点

これも個としての特性を決める重要な要因だが、生活構造という視点がある

cf.高齢者が夫婦とも健康で、友人も多く、生活に満足している場合は安全意識も高く、安全な交通行動をとることが多いが、家庭生活の不満を外での散歩や運転によって解消するといったケースでは事故を起こす確率も高い

(4)高齢者を弱者としてのみ扱わない

日本の高齢者は経済的・生活的には自立しているのに、交通分野では弱者としてのみ扱われる傾向がある

cf.内閣府が行った「高齢者の生活と意識」に関する国際比較調査

⇒日本の高齢者は働けるかぎり働き、自立していこうという意識が高い

それなのに、こと交通分野では弱き者、保護の対象といった形で扱われることが多い

高齢者もまたそれに甘える傾向がある

高齢者を大事にすることは重要だが、交通分野でも自立してもらうことが必要

高齢者の生活は比較的安定し、時間的ゆとりもあって、社会参加意欲も高い

他の人の安全のためにひと働きしてもらう余地は十分にある。他の人のために役立つことが、自分をも安全に向けて動機づける機能をもつことに注目すべき

(5)高齢者の柔軟な発想に期待する

指導者は、高齢者に柔軟な発想や対応をしてもらうには、どうしたらよいかということを常に頭におくべき

実のところ高齢者には、身体だけでなく心理的にも「固さ」が見られる

高齢者は「交通法規を守ってさえいれば安全は保たれる」とか、「私に限って、事故などにあうはずがない」といった一種の思い込みが強い

これをどのようにして解消するかが重要な課題

(6)他人と関わる場をつくる

「固さの解消」のためには、自己中心的な発想を避け、相手の立場で考えてもらうような場をつくることが重要

そのためには地域社会のことを考え、他人とかかわる場を多くつくることが必要で、交通安全指導の場でも、知識や情報を一方的に受けるのではなく、自らが積極的に参加する場をつくることが重要

また、高齢者の目線からみた交通環境への提言を求めることも重要

高齢者の交通環境の改善については、高齢者でなければ気がつかないことも多い

高齢者は自分達の安全のために積極的に発言すべきだし、交通安全指導の場でもそうした機会が作られるべき

3. 人間の行動と動機づけ－仲間づくりも立派な交通安全教育－

(1)人は誰でも「自分は間違っていない」と自分を正当化したがる

L.フェスティンガー：認知的不協和の理論

相手に「正しい注意」「相手のためを思っての注意」「誠意をもっての注意」をすれば、必ず相手

はわかってくれる？

(2)「問題の発見」が安全な行動をもたらす

「分かっちゃいるけどやめられない」のが人間

問題を見つけてもらわなければ、いくら正解を与えてもダメ

cf.「横断歩道は青でも直ぐ渡らないで、次の青になったら渡りましょう」

身（行動）は年をとるが、心（意識）は年をとらない

⇒隣は 10 秒、でも私は 5 秒、「だから私には関係ない」

(3)参加の場が考え方の修正や態度変容をもたらす

相手との人間関係に「参加」することで、相手の立場に立ってものを考える

cf.経営参加、懸賞募集、モニター制度

役割を演じることによる動機づけ、相手を受け身にしたのではダメ

4. 参加型交通安全教育の具体例

(1)「ネイバーフッドウォッチ」：アラバマ州タスカルーサ市

一人暮らし、老夫婦住まいの高齢者宅訪問による子供達へのボランティア教育

高齢者による子供達への交通安全指導

「子供へのボランティア教育」もさることながら、「高齢者への交通安全教育」

「情けは人のためならず」

⇒「ヒヤリ地図づくり」「世代間連携交通安全教育」「いきいき運転講座」

(2)ヒヤリ地図づくり

自分達の日常的な活動の範囲を話し合いで決め、その白地図をコピーと糊付けでつくり、どんなヒヤリのケースを取り上げるかを決める

その上で、地図上でヒヤリとした体験のある場所にシールを貼っていく、そして多くの人が指摘したヒヤリ多発箇所については参加者が自分のヒヤリ体験を具体的に説明し、注意を促し、改善すべき点を話し合う

そしてさらに、地図の出来栄えを評価し合い、それを他の人にも見せてさらに提案してもらったり、注意を喚起する

(3)世代間連携交通安全教育

高齢者と孫の世代、それに中間世代としての子供達の両親の三世代に交通安全教育の場に参加してもらうことで、お互いの立場を理解し合い、他の世代への注文やアドバイスを通して自分自身を動機づける効果をねらっている。高齢者が孫世代に対し、安全をアドバイスする機会（役割を演ずる機会）を持つことで高齢者自身が安全を守ることに動機づけられる

⇒「情けはひと（他人）のためならず」

(4)いきいき運転講座

自動車工業会「高齢者ドライバーの交通安全教育システム」検討委員会で開発

誰でもがリーダーになれ、誰でもが参加できる。講師を呼ばなくても、自分達の力で講座が進行できるように台本が準備されており、仲間づくりに役立つ

運転をしない人も参加できる～自転車、歩行者、助手席の立場から参加することが歓迎され

る。車を運転しない高齢者が話し合いに参加することは、ドライバーが歩行者や自転車利用者の立場を理解する上で、また歩行者や自転車利用者もドライバーの立場を理解する上でプラスになる。いろいろな場で使える工夫が凝らされている⇒老人クラブの集まり、地域の自治会、ボランティアの集まりなどの他に、企業の従業員や、退職者された方々など、誰でもその気さえあれば使ってもらえるような工夫が凝らされている

■活動事例発表

新発田市役所・地域安全課・交通安全指導員

佐藤　裕香

新発田市の交通安全指導員の佐藤裕香です。これから始めたいと思います。新発田市は自然が豊かなところになっています。新発田市の交通安全指導員の紹介ですが、現在 28 名。男性が 9 名、女性が 19 名います。みんなでアイデアを出し合い、会議などでは、教材の検討会などで意見を出し合って充実した交通安全指導ができるように心がけています。

交通安全指導員の活動風景をご覧いただきます。保育園やこども園での交通安全教室では、子ども達の印象に残るように、カラフルな教材や大きく分かりやすい作りを心がけて、内容の終わりにはオリジナルキャラクターを作ったものを使用したおさらいもしています。交通ルールや信号標識を覚えてもらったり、視覚や音を使ったゲームを導入したりして取り入れています。保護者参加型の交通安全教室では、先ほど説明があったように、チャイルドビジョンを使って道具を使わずに、手で目の周りを覆って簡易的に親御さん達に見てもらって、視点の違いを確認、認識してもらい、あと駐車場や送迎時の注意なども伝えています。教室の中では通しつなぎではなくて安心つなぎでの実技、あと親子での歩行実技では最低限のアドバイスで、実際に親御さんと子供さんで考えてもらって実践してもらっています。

春から夏にかけての前期教育では、DVD や信号機を使用した信号の色と意味を理解するための基本説明。あと横断時には三つのお約束として止まる、見る、待つ、の理解を指導しています。秋から冬後期の教育では、信号の色の意味のおさらい。あと、壁を使用した見通しの悪い交差点を再現し、悪い見本と良い見本を指導員が寸劇等で見せて危険性を認識してもらっています。一時不停止や反対側からの声がけ等を主にやっています。止まる、見る、待つ、これを三つのお約束。子供に何回か呼びかけてしっかりと覚えてもらえるようにしています。

続いて、小中学校での交通安全教室では、歩行実技を 1 年生と 2 年生に。1 年生は新入学で登下校での注意点に合わせて、実技中に子ども達にも自主的に考えて歩行してもらえるように取り入れています。壁からの見通しの悪い交差点や注意する点、とまってくれた車へのお礼や、アイコンタクト等も一緒に教えていて、自転車教室では、新発田市では昔から子どもが一人で自転車に乗って街中とかを移動する際は、3 年生から乗っていいですよという風にして、地域によって運転技術に差があるので、乗れない子、乗れる子、道路で練習ができる公園等の場所にもよりますが、それを考慮して怪我や危険性があることから、2 年前から 4 年生になってから、実技を通して一人で、外で自転車を運転していいですよという風にしています。3 年生以下の児童は、保護者の管理の下で乗車してもらうようにお願いしています。内容なのですが、3 年生では自転車教室として自転車の仲間であることから、そこに関わるルールや右後方確認の大切さや自転車の安全な乗り方を、道具やヘルメット、体、うちわを使って後ろの方、右後方の方で見てもらうというゲームもしたりしています。4 年生では自転車実技として、自転車の基本姿勢や右後ろ確認、壁を使用した見通しの悪い場所でのとまり安全確認の仕方をしっかり指導しています。中学生ではルールの再確認と危険予測、社会的責任の重要性を理解してもらう内容も取り入れています。

解決型教室では、学校周辺や市内の場所をパワーポイントで映し出して、そこで危険な場所や注意するべき場所はありますか？どこですか？というのを子ども達に問いかけて、それに対する回避方法等を考えて、子供達に書き出してもらって、まとめてもらってグループで最終的に発表してもらいます。それから最後に、指導員の方から交通安全の基本はルールを守ることですよというふうに言っております。

高齢者教室ですけれども、こちらは加齢に伴う心身機能の低下を認識してもらうことが大切ですけれども、マイナスイメージだけにならないように楽しい雰囲気で、指導員によってはジョークを入れたり、日常会話を楽しんだりしてもらいながら、高齢者が楽しみを持って学べる内容にしています。写真にあるように反射材の実験や歌合戦、声を出しながら体を動かすゲームを取り入れています。交通安全教室の実績はこの通りで、保育園、幼稚園、こども園が一番多くなっていまして、順に小学校、中学校、高校、あと高齢者教室、地域の行事とかに各世代別の交通安全教室の他に、季節ごとの交通安全運動では、地域警察署や地区交通安全協会及び交通安全母の会の関係団体と協力し合って交通事故防止に努めています。ありがとうございました。

公益財団法人群馬県交通安全協会・交通安全部長

亀井　保

群馬県交通安全協会の亀井と申します。関東・甲信越交通ボランティア講習会におきまして、発表の機会をいただきましてありがとうございます。また、この講習会には群馬県交通安全協会女性部から 4 名がこの場所で参加をしています。僭越でございますが、女性部について事務を行っている立場である私から女性部の活動ということで紹介をします。

群馬県の位置については、関東甲信越の方ですので、特に紹介する必要はないと思いますが県庁所在地は前橋市、12 市 15 町 8 村の 35 市町村で構成をしております。その中に 16 警察署の安全協会があるところです。皆さんご存知かと思いますが、左上に写真が三枚とイラストがありますが、左上が時分の温泉輸出量日本一の草津温泉ですね。右上が階段で有名な伊香保温泉です。左下が富岡製糸場、NHK の大河ドラマ「青天を衝け」で渋沢栄一が開設に尽力をしたということで有名です。もう一つが高原キャベツで有名な嬬恋村のキャベツ畑ということです。皆さんの食卓にも並んでいることが多いかと思いますが、たくさんの温泉や観光地がありますので、ぜひおいでいただけばと思います。

前置きはそれぐらいにして、本題ですが、群馬県交通安全協会の女性部というのは、地区の交通安全協会が 15 あると申し上げましたけども、その中にそれぞれ所属をしていて、全体で 176 支部 1835 人の方々がボランティアとして活動をしています。今こちらの方にいるのがまとめということで、女性部長、副部長、また常任委員が地区の女性部の部長さんを構成しているという組織になります。

さまざまな活動をしておりますけれども主なものとして、高齢者の交通事故防止活動、また幼稚園、保育園、こども園もありますけれども、交通安全活動。小学校等における交通安全活動リレー式交通安全啓発活動などということで、この中の家庭訪問や交通安全教室を写真の中で紹介をしたいと思います。

まず、高齢者の交通事故防止活動ですが、高齢者宅訪問ということに力を入れています。これは、もともと老人会や地域の集まりに高齢者の方がいらっしゃって交通安全教育等を受ける機会がないので、女性部の皆さんにそういう方のところに行っていただいて、 交通安全指導をしていただくというものです。近年、個人情報保護でちょっと厳しい状態ですが少しずつ回復しています。この場所は足元に命を発信運動ということで、先ほど新発田の方の紹介がありましたが、普段使っている靴に直接反射材を貼り付けるという活動です。これについて安全協会としても力を入れて表彰の対象ということでしています。

いきいきふれあいサロンでの交通安全教室では社会福祉協議会などが地域と協力をして場所を提供していて、その中での活動をしております。これはその1箇所ですが、 左下のところはカルタで、カルタはちょっと大きくして、絵札と読み札を示しながら、この問題点はどうですか？ という問いかけをしています。中では

右下では中に手品を入れたりしています。南京玉すだれいうのがありますけれども、こういうものをしながら交通安全教育をしています。南京玉すだれについては 14 番まで歌詞があります。歌詞に合わせて女性部が玉すだれを演じているということなのですけれども、南京玉すだれ、はたふり竿、歩道橋、赤い鳥居といろいろありますけれども、ちょっと歌ってみます。

さて、さて、さて、さて、さては南京玉すだれ。チョイと伸ばせば、チョイと伸ばせば、旗ふり竿にさも似たり、旗ふり竿、旗ふり竿がお目にとまれば元へと返す、元へと返す、ドンドンドン。

こんな感じで 14 番まで全てが交通に関係する歌詞になっています。何か印象に残っていただければ、女性部の人がこういうことやっていたなということで、交通安全、その後の交通事故防止にも役立つと思っています。もう一つは見ての通り、黄門様と弥七さんがいて、寸劇にこの方々が登場をして交通安全の話をしています。やはり黄門様が出て、あんな話をしていたという意識付けということで、出し物を変えながら行っているということです。

次は幼稚園、保育園児、こども園では着ぐるみの活動でお寺さんのこども園でということで、マモル君とマナーちゃんという着ぐるみを着ています。渡り方を皆さんでやりながらです。これも幼稚園で、指人形で交通安全の話、着ぐるみ着ながら興味を持たせながら交通安全を呼びかけているということです。

これはどちらのところでもやっていると思いますが、年長さんが学校に行くとき、初めて道路を渡って学校に行くと思いますので、実際の道路で渡り方を指導しています。横断歩道があれば一番いいのですが園の前ということでご容赦いただけばとおもいます。小学校における交通安全活動ということで、これは学校に入ってからの帰り指導ということで、下校時に新入学 1 年生をある程度の拠点のところまで送るのですが、先生だけでは大変なので、地区の交通安全女性部の方々が送っていくという形をしています。これを毎年行っているということで紹介させていただきます。これも地元の新聞の取材で紹介されました。こちらは群馬県交通安全協会のちょっとした宣伝ですが、毎年黄色い傘を子ども達に送っています。今年も 1 万 5000 本余り理事長から県の教育長の方に代表としてまず贈呈させていただいて、贈呈をさせていただくときに、保護者の皆さん、子ども達にチラシを入れているということですが、ここで女性部の皆さんがそれぞれ地区の学校を巡って一本一本配っています。使い方の練習ですが、幼稚園の時にはバスの送り迎えで親御さんが送り迎えをしていることが多くて、傘の使い方を知らない子が多いということを学校から傘の使い方、傘を使っての横断の道路の歩行方法、また、横断歩道の渡り方などを指導しました。こんな活動をしております。

交通安全啓発活動では、交通安全母の会というのが以前あり、全国キャラバン隊というのがありましたが、それがなくなったところで、群馬県については引き続き安全活動をしているところを引継ぎながらいくと、交通広報パトカーや広報性を連ねながらつなぐリレー式ということで、秋の安全運動地といいます。これも女性部の主な活動ですが、今年の沼田と渋川警察署管内で行いましたが、さまざまなボランティアの方がいらっしゃるのですが、その中で、紹介などリレーで交通安全のイベントをつなぐということで行っているものでございます。この場所に群馬県交通警察モニターと、先ほど出ましたけれどもキャベツの有名な長野原警察署管内の会長が来ていますので、紹介しようと思います。

交通警察モニターは群馬県で独自の制度だと思いますけれども、民間の立場で例えば道路施設などが壊れていたりするのを通報していただいたり、こうした方がいいのではないかというような勧告を民間の立場でしていただく組織があります。創立は昭和 37 年 3 月ということなのですけれども、今年、これの連合組織ができて 50 年経ったということで記念式典を先日行いました。定員 500 人ということなのですけど、現員は 434 人です。交通安全協会の活動をしていただく方もそうなのですけれども、ボランティアに参加している方

がだんだん少なくなっているということで先ほど人を集めるのは大変だという話がありましたが、こちらの方も同じかなと思っています。いろいろなキャンペーンだとかモニターの方も活動していただいています。交通安全協会の女性部とモニターについての紹介ということで、群馬県の発表を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。

埼玉県指導員連合会会長
相馬　誠一

みなさんこんにちは。私は埼玉県交通指導員連合会の会長をしている相馬です。私、今日は埼玉県のほぼ中央に位置しております桶川市からきました。私は秋田県生まれなので訛りがあると思いますので、その点はご理解いただきたいと思います。

これは桶川市祇園まつりの様子の写真でございます。桶川市の祇園祭りは明治時代から続いておると聞いています。日時につきましては 7 月 15、16 日の 2 日間行います。たまたま桶川市の中央に中山道という道路が通っておりまして、その中山道を約 1.5km の通行止め、歩行者天国として、神輿が出て、わっしょいわっしょいとやっているお祭りでございます。そのお祭りの 1.5km の道路に対して、街露天商さんが 300 件ぐらい毎年出ているお祭りです。その 2 日間で延べの人数は、昨年度は 10 万人、今年は 9 万人と聞いております。ちょうど 2 日目の 16 日は雨でやっぱりどうしても人が少なかったですので。それでも、桶川市の人口は 7 万 5000 人ぐらいしかいないので、いかによそから見にくる人が多いかなという感じがしております。皆さんも機会があればぜひ。このお祭りに対して警察官、ガードマンという数多くの皆さんの協力をいただきまして、交通整理を行っているお祭りでございます。

これは研修につきましての写真です。私が交通指導員になった昭和 53 年頃には桶川市でもほとんど男性の方でした。その当時はやはり研修会ということは研修で受けていろいろやってまいりましたけども、平成の半ばごろには女性が増えてきたので、どうしても 1 泊研修ということは無理になりまして、その頃からは日帰り研修ということでいろんなところへ日帰りで行くことで研修してまいりましたけれども、それをやっている間にコロナという病気がありまして、4 年間全然何もやらないでいると、いざコロナが終わりましても、やはり皆さんがやりましょうという声はなかなかなく、ここを何年間は地元で警察さんを呼んで、主に警笛の吹き方、また警戒棒の使い方の研修を 5 日間程度行っている状況でございます。

これは街頭キャンペーンでございます。毎年、春夏秋歳末に全国交通安全運動があります。その期間に出られる日、だいたい 1 日か 2 日街頭に出まして、いろんなチラシを配ったり、夏にはうちわを配ったり、いろんなことをして、運転手さん、歩行者に交通事故に気をつけてくださいということを一言添えて物を渡しているわけでございます。最近ここ何年間は秋の交通安全運動には事故なしということで、本物の梨を配るようにしておりますけれども、やはり 500 個ぐらい用意した梨は、皆さんがすぐもらうために 15 分か 20 分ぐらいでなくなる状況でございます。梨を断る人はいないということでして、いかにやっぱり食べ物は人気があるかなという感じです。

これは私の朝のお友達の活動についてのお話しをさせていただきます。私は昭和 53 年から今年で 47 年目でございます。今までずっとやってきて、ここで変わったなということは、埼玉県は自転車王国でございますけれども、自転車のマナーの悪さ、高校生が非常に自転車のマナーが悪いなということは、私は最近ずっと考えております。先ほど村山先生が話したように、やはり父兄の方が幼稚園・保育所などに送っている場合に、自由自在に左右を走っていますから、やはり子どもの頃から、ああ、こういうものだということを身について

いるから、いざ大人はなかなか治らないというのはあると思います。

自転車はどうしても日本人は歩行者感覚で運転しているというのが今の状況じゃないかと思います。また、自転車につきましても、11 月からは再度法令が変わりまして厳しくなると言っております。ここで一つ一つ一軒一軒で自転車の乗り方をもう一度考えていただきたいということでございます。自転車は自動車と同じです。それをやはり忘れないようにして家庭で話して欲しいと思います。もう一つ、子どもの朝のあいさつが非常に少なくなったと思います。他の県の子ども達はわかりませんが私どもの桶川市では、なんか少ないなというような感じがしております。これもやはり先ほど村山先生が言ったように、今はいろんなテレビでファミコン、夜遅く寝るとどうしても朝学校に行くときにやっと起きて、やっと学校に来た感じだと、半分寝たような形で歩いているから挨拶が少ないのかなと思います。そこは時代にしたがってしょうがないという感じはしていますが、一番簡単な挨拶は日常生活に大人になってからも必要だと私は思っているので、私達は欠かさないでいきたいと思います。声がちょっと悪くてまとまらない話ですけども、どうもありがとうございました。

八王子交通安全協会副会長青年部会長

秋山　重男

皆さんこんにちは。ただ今ご紹介にあずかりました八王子交通安全協会青年部会長の秋山と申します。よろしくお願いいたします。

八王子市には、現在八王子、高尾、南大沢と 3 つの交通安全協会があります。本日私が所属をしている八王子交通安全協会について紹介したいと思います。昭和 23 年の 3 月に八王子警察署内に設立されました。本年で 76 周年目を迎えております。所属する交通指導員数は千人少し在籍しております。大勢の方にご尽力をしていただいておりまして、春秋の交通安全運動はもちろんのこと、来場者が、8 月の第 1 金土日 3 日間に行われる八王子花火大会、これ来場者が 9 万人となっております等々、地域の交通安全推進に精力的に活動をしているところでございます。八王子警察署、八王子市役所等々と協力し、交通事故のない安全で安心なまちを目指しております。

八王子市の交通安全計画におきまして、2021 年から 5 年間で交通事故による死亡者数、年間について 5 名、死傷者数を年間 1200 名というとこの目標をとっております。

続きまして、八王子市の交通事故の現状を前年令和 5 年度のデータをもとにお伝えをいたします。最初に子どもですけれども、子どもの定義として、幼児から中学生という風にしておりますけれども、前年総件数は 81 件でした。内訳につきましては、幼児が 3 名、小学生が 44 名、中学生 34 名が関与をしておりました。統計の負傷者数は 109 名でございます。そのうちの 24 名が歩行者としての事故に遭遇しております。また 56 件が自転車に乗っているときに交通事故が発生しておりまして、特に小学生の自転車による関連する事故が多発しているというのが現状です。また、交通事故の発生時間帯別に見ると、朝 8 時から 10 時というのが最も多くなっているところでございます。

続きまして、高齢者は 65 歳以上という形の中で集計をしております。年間死傷者数は 279 名でした。うち死亡が1名、また八王子市では中央高速道路というのが走っております。そこに、大変残念な結果なのですが、高速道路に歩行者が誤侵入したという事例があります。それにつきましては、たまたま犬の散歩でうっかり侵入してしまったという事例だそうです。これらの現状を踏まえて、八王子交通安全協会がそれぞれに対し、どのような活動を行っているというところの紹介をさせていただきます。

まず子どもの交通安全に対しての取り組みです。小学校 3 年生になると自転車安全教室というのを開催

します。これに受講して OK をもらうと自転車運転の免許証を交付します。それで正式に地域で自転車デビューという形になっています。新1年生ですけども、新1年生についてはここにも映ってございますけれども、横断歩道を安全に渡るための 3 つの行動を意識する、横断 SAFETY ACTION というのを習得しようという形の中で呼びかけています。1 点目はまず顔を車両の運転手さんの方へ向く。2 点目は手を出して運転手さんに合図をする。そして安全な場所で足を一歩踏み出すという形の中で 3 つのアクションでドライバーに「道路を渡りますよ」という気持ちをはっきりと訴えて、安全に横断歩道を渡れるようにしています。市内では交通安全のための対策も強化をされておりまして、子どもを守るための啓発運動を実施しています。なお、この横断 SAFETY ACTION は TOKYO SAFETY ACTION の一環でもあります。

次は高齢者に対して実施している取り組みです。これは女性部に主にやっていただいております。様々な施設で交通安全の指人形等を活用しまして活動をしているところでございます。実は高齢者だけではなく、幼稚園、保育園、児童館、学童保育所等施設にも訪問して、様々な年齢に対して交通安全の呼びかけを実施しているところでございます。また、シルバーリーダー講習会というのを実施しているのですけれども、そこにおきましてもシニアクラブ向けの交通安全講習会を実施して、高齢者の事故防止活動に取り組んでいます。

そして、自転車に対しての取り組みになります。自転車月間というのがあるのですけれども、自転車利用者を対象に自転車安全利用五則の徹底やヘルメットの着用促進という形の中で啓発活動を実施しております。管内の自転車交通事故防止に勤めています。管内の小学校 4、5、6 年生を対象にチームを作り、東京子ども自転車大会というのに参加しています。本年もそれに参加して東京都で優勝しまして、全国大会に出場したとこです。

最後になりましたが今後の取り組みと展望です。地域の交通安全はボランティアのちからだけで成立するものではございません。市民一人一人の交通安全意識の向上と参加が必要です。その足掛かりとして交通安全協会の活動を周知し、参加していただくために事故のない安全安心なまちづくりを目指しまして、日夜活動してまいります。これで終了にします。

栃木県交通安全母の会連合会理事

小堀　惠美子

こんにちは。栃木県の那須烏山市交通安全母の会の小堀と申します。写真とか資料とか用意しませんでしたので、説明だけになります。また身近な活動など大げさなことは何もやっていませんので大変恐縮です。

初めに私どもの会のある那須烏山市ですけれども、栃木県の東の端にある茨城県と接する人口 2 万人ほどの本当に小さな市です。蛇姫伝説などのある歴史ある城下町でもあります。その中で交通安全母の会ですけれども、市の婦人会を活動の母体としております。会員数は約 80 名ほどです。本市では 2010 年、市が合併した当初から子どもの生活リズム定着を目指す、早寝早起き、朝ごはんの推進だとか交通安全運動の推進などに力を入れています。その中で、私どもの会では交通安全母の会の活動に取り組んできております。そして、会の目的・目標としましては、子ども達や高齢者に正しい交通ルールを理解してもらうことによって交通事故の防止に寄与することを目指しています。

活動内容としては 3 つあります。1番はノーマルですけれども、交通安全、県民総ぐるみ運動への参加と那須烏山市交通安全運動推進会議。2 番目は小学1年生への交通安全人形と交通安全リーフレットの配布です。交通安全人形を本日、同じものを皆様にお渡ししていると思うのですが、私どもの市は和紙の里、

烏山和紙の産地ということで、子ども達が安全な生活を送れるように、送れることを願って地元の和紙を使った交通安全人形を毎年1年生に交通安全リーフレットとともに配布しています。交通安全人形の配布は30 年以上の歴史があるそうで、入学式の折に子ども達新入生に配るのですが、一緒にいるお父さんやお母さんも「自分達も同じものをもらったんだよ」という話をしていただき、あるいはお子さんによってはランドセルのポケットで6年間愛用してくれたという嬉しい話もあります。人形の帯や着物とか衿など和紙の柄の組み合わせを工夫しながら、会員さん達で毎年楽しく心を込めております。

学童保育での交通安全啓発活動では、写真がないのが残念なのですが、私どもの会ではパネルシアターを行っていて、いろいろなネタ、題材を持っていますが、お子さん向けの交通安全指導では『ミーコの飛び出し』というパネルシアターを上演しています。死をテーマに事故で遭遇する死という悲しい事実を子猫のミーコの経験に置き換えて理解してもらおうというものです。クイズなども交えて子ども達に理解してもらっています。

活動以上なのですけれども我が会もご多分に漏れず、会員数の減少と高齢化、会員のほとんどがアラエイト、80 代を超えていますけれども、とにかく皆さん意欲的で元気いっぱい周りの方々からも感心され、お褒めをいただくくらいです。これからもみんなで声を掛けあって、チームワークで活動を続けていきたいと思っています。ご静聴ありがとうございました。

一般社団法人長野県交通安全教育支援センター交通安全教育主任指導員
竹内　滋美

みなさんこんにちは。一般財団法人長野県交通安全教育支援センターで主任指導員をしております竹内と申します。当センターの指導員の活動紹介をさせていただきます。よろしくお願い致します。

初めに、当支援センターは【歩行者と運転者　目と目で交わす　思いやり】をスローガンに掲げています。これは交通事故の実態や交通ルール、マナーを理解してもらうことが極めて肝要なことだと思っていますが、究極の交通事故防止は、人が人を思いやる心であるとの考えからです。道路を利用する一人一人が互いを理解し、思いやりのある行動ができるようになれば、交通事故は必ず減る。そんな思いを持って活動しています。

私どものような団体は全国でも稀な組織だと思いますので、組織の概要等について若干ご説明させていただきます。当支援センターは、長野市に事務局を構え、理事長以下 5 名の事務局職員と理事長が委嘱した指導員、現在は男性 2 名、女性 18 名が交通安全教育を実施しており、全員が元警察官です。私ども法人は平成 14 年 4 月にそれまで行っていた自動車教習業務を民間に譲渡し、財団法人長野県交通安全教育支援センターとして交通安全教育を専門に行う団体として再スタートし、平成 24 年 4 月、一般財団法人へと移行しました。当支援センターは保有している自動車教習コースの賃貸料を財源に交通安全活動の様々な取り組みをし、幼児から高齢者まで、主に交通弱者を対象に交通安全教育を無料で実施しています。

交通安全教育の活動実績ですが、コロナが収束し始めてから少しずつ回復傾向にあり、令和5年度の実施回数は 912 回、受講者数はおよそ 10 万 8000 人となっています。指導の方法は皆さんも同じかと思いますが、わかりやすく、参加型になるように心がけています。腹話術や着ぐるみを使った講習や映像、パワーポイント、パネルなどを使って、グランドでは歩行、自転車実地動、また車両を使って視覚や内輪差、衝突実験も行います。高齢者には指導員がおばあさん役となり、身近に感じてもらいながら寸劇方式で講習をし

ます。すべての指導員が行うため、何通りもの個性あふれるおばあちゃんが出来上がり好評です。

通常の教室の他に取り組んでいる活動の一部を紹介させていただきます。保育園を対象に行っている交通安全モデル園事業です。毎年、県内で数園の保育園や幼稚園を交通安全モデル園に指定させていただき、指導員が行う年 1 回の受け身の安全教室だけでなく、保護者、保育士さんなどと手を携え、1 年を通して交通安全教育を行うなど、子ども達ができるだけ早い時期に危険を回避できるように交通安全の意識を継続的なものにしたいと考えた事業です。通常の園児向け指導のほかに教職員、保護者、祖父母への講習、お散歩への同行、その後の検討会、止まることを習慣化させるために【ピタッとストップ大作戦】と名付けた。オリジナルストップマークの貼付、公演時指導で手をつなぐチャイルドシート着用の声かけ、園児から祖父母へ送る反射材作成などがあります。この活動を通して驚くことは、私達の声かけから始まったものですが、先生方からこんなことできますか？　などと積極的に取り組む言葉を多く聞くようになっていくことです。先生方や保護者さんの意識の変化を感じることができ、嬉しく思っています。

また、園児見守りサポート事業として、日頃から園外での園児の交通安全に苦労されている保育士さんの一助となるようにと、夏でも着用できるメッシュ素材のオリジナルベスト、伸縮ポール横断機をモデル名に使用いただいています。児童向けには、【私達の交通安全宣言事業】があります。これは大人から「こうしましょう、ああしましょう。」と言われるだけではなく、子ども達自身が自ら考え、自分自身の交通安全目標を立ててもらう活動です。書いていただいた目標には、指導員がシールを貼り、児童に返却します。安全教室後、しばらくしての返却になるため、もう一度振り返ってもらうことができます。さらに、その目標の中から毎年 2 点を選び、共通の目標としてポスターにして県内の小学校に配布しています。また、本年度は高校生以上を対象に、自転車乗車時のヘルメット着用促進用のオリジナルパンフレットを作成するため、指導員が検討会を開き作成しているところです。

私達はよりよい講習を目指し、交通安全教室終了後にはアンケートをお願いしています。いただいた声を次回の講習に生かすように、指導の内容を考え、さらにわかりやすい交通安全教室を心がけ取り組んでいます。また、年に数回、全指導員が集まり、新しく作成した教材の教養研修会や講習受講した指導員の還元教養なども指導員間で行っています。

そして、皆さんにご紹介したいものは交通安全教育機材です。全国の指導員の皆さんがそうだと思いますが、使用している教材はほとんどが手作りです。中には手作りにそぐわないものがあります。こんな教材あったらいいなぁという指導員の声を吸い上げ、かつ、できるだけ価格を抑え、同じ活動をしている指導員の皆さんにも使ってもらえる教材を、株式会社ジェイウィンさんの協力を得て開発しており、商品化した教材が何点かあります。全国に広がりつつありますが、評判がいいのが意外にも模擬縁石（縁石くん）でした。ぜひホームページなどで見ていただけたら嬉しいです。

最後に長野県には私達の団体のほか、交通安全活動に長年関わっていただいた交通安全協会さんや自動車販売店協会さん、各市町村の指導員さん、NPO、そして教育現場の先生方の取り組みなどがあります。道路を渡るときは手を挙げて車に合図をする。止まってくれたら、ドライバーに対してありがとうの頭を下げる。ドライバーも見かけたら止まってどうぞと合図をする。これは長年の交通安全教育の場で変わることなく指導されてきたことです。この結果、横断歩道停止率が高いことにつながっていれば嬉しく思いますが現実では、横断歩道場での交通事故も発生しています。私達指導員はこれからも交通事故で怪我や尊い命が奪われることがないように、地道にコツコツと活動していきたいと思っております。以上です。

茨城県 県民生活環境部生活環境部生活文化課安全なまちづくり推進室主事
髙城 莉奈

茨城県県民生活環境部生活文化課の髙城と申します。これから茨城県の活動事例発表を始めます。よろしくお願いいたします。

茨城県の交通ボランティアとして茨城県交通安全母の会連合会を紹介します。茨城県交通安全母の会連合会は、【交通安全は家庭から】の理念のもと、地域社会における交通安全の普及啓発活動を実施している団体です。昭和 42 年に設立され、今年の 7 月時点で会員数は約 7 万人となっております。活動内容としては、児童生徒の登下校時の立哨、見守り活動、各期の交通安全運動への参加、街頭啓発活動の実施、各世代を対象とした交通安全教室の開催、高齢者世帯訪問による交通安全の呼びかけ、反射材の配布、機関紙の発行などです。本日は、こうした活動の中から、世代間交流型交通安全教室を活動事例として発表します。

世代間交流事業は、子ども・親・高齢者の三世代が一同に会し、体験交流を通して相互理解を深めるとともに、交通安全の啓発と交通事故防止を目的として実施しているものです。元は内閣府委託事業として実施されていたと聞きいておりますが、事業終了後も地域社会全体で子どもと高齢者に対して交通安全意識を啓発するために有効な活動であることから、平成 26 年度より茨城県と茨城県トラック協会が母の会と共催で実施しています。茨城県交通安全母の会連合会の支部から昨年度実施した三地区の活動内容を紹介したいと思います。

1つ目の地区は境地区交通安全母の会連合会です。小学生や老人会の方々を対象に実施されました。警察から話をしていただいた交通講話では、危険箇所での注意点や、交通事故防止の心得など、子どもから高齢者にもわかりやすい内容で、交通安全に対する意識を高めることができました。実技では自転車と歩行の指導が行われ、自転車指導では児童 3 名が代表でコースを走行し、乗車前点検の必要性や安全確認の大切さを学びました。右上の図がコースの内容になります。停止車両や止まれの標識、信号のない交差点などが盛り込まれています。歩行指導においても、コースを児童や高齢者が実際に歩き、安全確認や信号のない交差点での横断の仕方などを見直す機会となりました。

2 つ目の地区は牛久地区交通安全母の会連合会です。小学生、中学生、シニアクラブの方々を対象に実施されました。スケアード・ストレイトでは、自転車利用時におけるリアルな交通事故の再現を目の前で見ることにより、交通事故による危険と怖さを体験しました。交通ルールを守ることの大切さを感じ、交通安全意識の高揚を図ることができました。ヒヤリハット地図の作成では、身近な地域の危険箇所を出し合うことで注意すべき場所を把握し、交通事故防止につなげます。スライドの右下の写真が実際に作成された地図になります。道幅が狭くカーブしている、坂道でスピードが出やすい、雑草が茂っていて見通しが悪いなど、危険箇所をポイントとしてマークして今後の運転や通行の際に注意して走行できるように再確認を行いました。

3 つ目の地区は大子町交通安全母の会連合会です。園児とその保護者及び祖父母を対象に実施されました。警察に話をしていただいた交通安全講話では、腹話術人形を取り入れ、園児達は交通安全の約束、道路に出るときはピタッと止まるを勉強しました。シートベルト効果体験では、保護者の方々を対象に実施され、実際の衝撃を体験することによりシートベルト着用の必要性を感じていただきました。その他にも交通標識ビンゴゲームや、白バイやパトカーの展示、乗車体験など、通常の交通安全教室では体験できない内容だったため、園児達の興味が尽きることなく、楽しく学びながら交通安全について理解と関心を深めることができました。

3 つの地区の活動事例を紹介しましたが、どの地区においても子どもから高齢者まで幅広い世代が交流しながら交通安全について考える非常に有意義な時間となりまして、参加した方々からも地域で見守りながら生活する上で良い機会になったと話を聞いております。

最後に茨城県の交通安全に関する情報を紹介します。茨城県では各学校などで開催される交通安全教室や交通安全に関する研修会などを開く場合に、交通安全教育講師を派遣する制度があります。県にある保育園、幼稚園、学校、企業、各種団体などが主催する教室や研修会などで子どもからお年寄りまでの幅広い年齢層に対応しております。特に年度始めは県内の学校などから交通安全教室の依頼が多くあるので、私達県の職員が講演や実技の指導を行うこともございます。また、当室が運営する SNS、X や YouTube などにおいても随時交通安全に関する情報を発信しております。お時間のある方はぜひチェックしてみてください。今後も本日紹介した交通安全母の会などの交通ボランティアの皆様のご協力をいただきながら、県の交通安全活動を推進してまいります。以上になりますが、茨城県の交通ボランティアの活動事例発表を終わりたいと思います。ありがとうございました。

南アルプス市防災危機管理課副主任
古谷　光基

山梨県南アルプス市の防災危機管理課古谷と申します。活動事例発表ということで本市の活動、交通安全への取り組みについて発表をさせていただきます。

南アルプス市の簡単な説明をさせていただきます。南アルプス市は山梨県の西側にあります。東西に長細い形をしております。平成 15 年に 6 町村が合併して出来ていまして、今年で 21 年目の市です。人口は 7 万ちょっと、館林市と同じぐらいで、先ほどの鈴木先生の話で言うと、小都市に分類されるのかな というところです。市の面積の 4 分の 3 くらいは山でして、西側の方行くと日本で 2 位の北岳や県境の方に 3 位の間ノ岳があります。年間通して果物が多く取れるところでして桃、スモモ、ブドウ、サクランボなど有名なものがいっぱいあります。続いて本市の道路状況についてですけれども、主要道路はほかにもたくさんあるのですけれども、大きなところはこの三つ、国道 52 号、中部横断自動車道、山梨新環状道路です。主な交通手段として自家用車、山梨交通さん、市内を回っているコミュニティバスといったところが主要な交通手段です。山梨県内で唯一鉄道が通っていない市です。続いて昨年の交通事故の状況ですけれども、事故発生件数が 207 件となっておりました。コロナ禍が明けた頃からちょっとずつ増えてきているというような状態です。ただ、死亡事故の方は、令和 2 年の 10 月から 0 件ということできていまして、一応 11 月 20 日で 1500 日連続、ゼロが 1500 日達成できているというようなことになっています。

ここから本題の活動報告に入らせてもらいます。まず交通安全教室についてです。本市には専門交通指導員の方が 3 名いらっしゃいまして市内の保育園、小学校、高齢者サロンなどで年間だいたい 150 回くらい実施しています。このページでは保育園、幼稚園と小学校の概要を示していますが、内容としてはこういったことをやっています。園児さんや小学校の子ども達には DVD を見てもらったり、交通安全教材を使ったり、実際に外に出て歩いてみたりなど、視覚的や実践的な内容でわかりやすさを重視しながら実施をしています。

続いて、高齢者の方に向けた交通安全教室の内容になります。実施回数は少ないのですけれども高齢者サロン等に専門交通指導員さんが出向いて実施をしております。昨年実施した時には南アルプス警察署の交通課の方も来ていただいて、運転者に向けた話や啓発品の配布も行ったということで聞いております。内容としましてはわかりやすく、楽しく伝えられるように工夫をしていただきながら実施しているということで、ま

た、年を取ると反応が遅くなったり動きが遅くなったりするので、昔に比べてもっと気をつけましょうというようなお話も組み込んでいただいております。あとはその他に入れていますが、民生委員、児童委員さんの会議の方で、見守りの仕方、交通指導の仕方といった内容で研修も年に 1 回あるかないかですけれども実施をしています。

次に、高校生による交通安全運動についてです。春と秋の全国交通安全運動を夏と冬に山梨県では交通事故防止県民運動という形で、年 4 回交通安全運動を実施しています。年末の交通事故防止県民運動に合わせて市内にある県立高校 2 校の生徒さんと啓発活動を行っております。それぞれの高校に近い市内の主要交差点に朝集まっていただいて啓発品の配布と交通安全の声かけをしてもらっています。昨年度は雨で 1 校が中止になってしまいましたが、もう 1 校は実施できて 17 人の方に参加をいただいています。高校生も自転車や原付バイクを運転する方がいらっしゃいますので、啓発活動に参加してもらうことで、改めて交通安全意識を持っていただければなということで、実施をしております。

最後に、高齢者講習の勉強会についてです。直接交通安全に関わってくるかっていうところがちょっと微妙ですが、現在 70 歳を超えて運転免許更新する方については高齢者講習というものを受講しなければいけないということになっています。そういった状況があるので、次回の免許更新時に講習の受講が必要な方を対象には高齢者講習の勉強会を開催していて昨年は希望があった 20 名の方に参加いただいております。本市は車がないと生活が不便になってしまいますので、本市の現状を見ると車が正常に運転できるうちは運転していただいた方がその方のためになるのかなという風にも思っていまして、ただ運転をするからには交通法規を守らなければいけないということで、交通安全の基本的なものをもう一度確認していただくことなどを学習会で伝えています。あとは運転を補助してくれる車もあるということで、サポートカーの乗車体験等も実施をしています。発表内容は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

八千代市都市整備部土木維持課交通指導員

川越　香織

みなさんこんにちは。私は千葉県八千代市で交通指導員をしています川越と申します。私達は幼稚園から高齢者まで出前型の交通安全教室を行っております。一貫して行っております教室の内容の一例をやりたいと思います。

テーマは交差点での安全な通行方法というものです。交差点は事故が多い場所です。交差点を利用するすべての人が安全確認をしなければならない場所ともいえます。では、なぜここを利用するみんなが安全確認をしなければならないのか。この図を使って説明していきましょう。

この交差点は先ほどのように見通しの良い交差点で、信号も交差点もある交差点だと思ってください。ここでは車両は当然、横断歩道が近くにあった場合、減速し、歩行者がいるな、渡りたい人がいるなという場合は、一時停止をしなければならない場所です。では、歩行者はどうでしょう。歩行者の人は近くに横断歩道があったらそこまで行きます。なぜ横断歩道がいいのか。車の人が気づいてくれやすい場所、見つけてもらいやすい場所とも言えます。歩行者の人近くに横断歩道があったら、そこまで行くと安全ということになります。では、自転車はどうでしょう。自転車は車両です。乗って走ったら車の仲間です。車の仲間としていろいろな通行方法はあります。歩行者となって横断歩道を利用すれば、車の人にも気づいてもらいやすい、事故になりにくい、見つけてもらいやすい一番安全な通行方法とも言えるのではないでしょうか。歩行者となって歩行者用信号に従う。これがいいのではないかと思います。

では、なぜこの場面で横断歩道を利用する者も安全確認をしなければならないのか、した方がいいのか、それはこの車の構造上のお話しをする必要があると思います。

さあ、この図を見てください。車には車の屋根を支えるピラーなどで車の運転士さんから見えない場所がこんなにあるのだということ、一瞬でもここの中に入ってしまえば見えていないということです。そして、こんなことも起きているということです。安全確認というのは右、左、前、後ろいろいろなところを確かめます。こちらを見ていればこっちのことを見ていない、気がついていないときがあるということです。改めてこの場面で考えていきましょう。赤い車の運転士さん横断歩道のところで止まっています。 しかし、屋根を支えるピラーでここの部分が見えていないかもしれない。対向車やこちらの歩行者信号を確かめている間にこっちのことに気がついていないかもしれないと横断する方も考えなければならないということです。見つけてもらってないかもしれないな、見えていますか？ 見つけていますか？ 歩いている人も、こうやってお互いに安全確認をする場所だということです。

ここで改めて道路というのはどういうところか確かめましょう。道路は知らない者同士で使います。そして、いろいろな立場の人で使っていきます。自動車、自転車、バイクや歩行者それぞれの立場の人がそれぞれの立場のルールを守ることによって安全が保たれるということです。そして、自分だけで使っているところじゃないということです、相手がいるのです。相手がいるということは思いやりと気遣いの必要な場所ということです。道路を使うみんなが思いやりと気遣い、みんながルールを守り、お互い様、お互いにルールを安全確認し合うことで事故が防げるのではないかと思います。

このような形で言葉や内容は少し違いますが、 いろいろな年代の方にこのことをお話ししています。本日はどうもありがとうございました。

神奈川県交通安全母の会連合会副会長

井上　陽子

神奈川県交通安全母の会連合会副会長井上陽子と申します。戸部交通安全母の会連合会の会長ですが、戸部というところは、横浜の西口、東口、みなとみらいを含めた大変な都市でございます。戸部交通安全母の会は横浜市西区ですが、人口は約 10 万、世帯数は約 5 万の横浜駅を中心とした近代都市でありますので、交通安全もすごく激しいです。

ここに載っている写真は地域活動の中での交通安全七夕、これが小学生やご老人の方にとっても受けております。それから、各家庭訪問で商店街の店主様のところにご訪問させていただいております。高齢者の交通安全は、高齢者の大会の時に呼んでいただいておりますので、300 人とか 500 人とかっていう大人数のところに呼んでいただいております。

地域のクリスマスイベントとかハロウィンのイベントとかそういうときにも呼んでいただいて、活動させていただいております。それから右側のにしまろちゃんという西区のキャラクターも一緒に参加しております。それから、下の写真は【ブ・タ・ハ・シャベル】で平沼小学校の交通安全教室です。以上でございます。ありがとうございました。

■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

千葉大学名誉教授

鈴木　春男

鈴木先生：鈴木でございます。10 都県の方々から大変ユニークで素晴らしいご報告を頂戴しました。ただ 10 の都県があったものですから、大変時間がかかってしまい、実はこの意見交換会 40 分予定されていたのですけども、実質的には 15 時 40 分までとなっておりますので、20 分強しか実は時間がありません。できるだけ効率的にいろいろ質疑その他ご意見交換をしたいと思っています。

　それではいかがでしょうか。何かご意見がございましたら。ではどうぞ会場の方。

●：新潟県の方、千葉県の方で所属が市役所になっているのですけども、交通安全指導員となっているのですけれども、これはその市の職員なのかどうなのかをお聞きしたいです。

鈴木先生：はいありがとうございます。新潟県の方、千葉県の方、市の職員かどうかという質問のようでございますがいかがでしょうか。

●：新潟県新発田市は新発田市役所の嘱託職員の形として、地域交通安全課に所属する形となっています。

鈴木先生：千葉県の方はいかがでしょうか。

●：私達は八千代市役所の土木維持課に所属している会計年度職員になります。

鈴木先生：ありがとうございます。

●：ということは、お給料をもらっているっていう解釈でいいかどうか。

鈴木先生：いかがでしょうか。

●：そうですね。報酬という形で1回、時間制で報酬が決まっていて、有償型ボランティアと言っています。

鈴木先生：はい、ありがとうございます。お金のことが出たついでに申し訳ないのですけど、群馬県で先ほどの傘を小学 1 年生に配布されていると聞いていて大変驚いたのですが、これは全部あの交通安全協会さんの会費の中から出しているのか、どのくらい費用がかかるのか。

●：これはあの交通安全協会の一つの重要な事業の一つでありまして、毎年新入学1年生に1人1本配布をしています。うちの協会とするとかなりの負担ですが、これはそれぞれの団体、農協さんや損保会社さんなどから交通安全のグッズを配布していただいていますけれども、群馬県とすると、傘ということで配布しています。かなり好評をいただいておりますが、群馬県の交通安全協会が配っているのではじゃなく、学校から配っていると言われることが時々あるのですが、アピールするために教育長さんのところや、マスコミの方にも声をかけて一生懸命報道していただくように心がけています。

鈴木先生：失礼ですけど、1 本どのくらいなのか。あの、透明な部分があってとても見やすいし、いい傘だなと思ったのですけれども。

●：ありがとうございます。透明の部分が売りでして、1 本いくら、ちょっと値段的には 300 いくら 400 円弱ぐらいです。

鈴木先生：ありがとうございます。もう本当、大変すばらしい事業だなと伺っておりました。

　ほかにいかがでしょうか。どうぞ、会場で手を挙げた方。

●：あまり話題に上がっておりませんでしたが、私どもの交通安全協会では高齢化が進んでおりまして、指導

員の数は 530 人ぐらいいるのですけれども、だいたい 3 割活動できていない。実稼働員といいますかね、今後新しい指導員を募集しても、なかなかその指導員になってくれる方がいない。それをどう解決すればいいのかということで町会とかとも話をこれからしなければならない問題だと思うのですが、安全協会や安全運動をしているグループ団体においても同じ状況じゃないかと思います。私は完全に無償じゃなくて何らかのインセンティブが、お金の問題だけじゃなくて、精神的な部分も含めてソフト面ハード面でのインセンティブがなにか必要じゃないかということで、全国的にそういう傾向にあるのではないかと思うのですけどもね。それが大変だと思うのですけれどもどのように考えているのか。どなたか参考までに聞かせていただければと思います。

鈴木先生：ありがとうございます。ボランティア活動もインセンティブが必要じゃないか。もしそういうことで工夫されている県があったらご発言いただけないか、ということですけどもいかがでしょうか。

まぁ交通費のようなものが、場合によっては何らかの形でというような工夫している県もあるように伺ったことがありますけれども。どうもお答えがないところを見ると、なかなか大変なことで。でも、ある意味では大事な問題なので、これは公的な機関も検討しなければいけないものというように思っています。ありがとうございました。ちょっとなかなか難しい問題を提起していただいたということで。

他に何かご質問はありますか、どうぞ。

●：度々申し訳ございません。八王子も青年部会長となっていますが青年ではないです。とても青年ではございません。そういった形の中で、どんどん毎年人員が減って、これから現役消防団の方が退任されると、「やることがないんだ」という方がいて、「じゃあちょっと交通安全協会どうよ」っていう話の中でちょっと話をしたことがあります。皆さんの市町村のところではどういうふうな勧誘方法をやっているのかお聞きしたいです。

鈴木先生：新しい、とりわけ若い会員の方をどういう風に働きかけ、入会いただくように働きかけしているか、そんなことの問いかけのようでございますが、いかがでしょうか。オンラインの方々も、あるいは実施している方がいらっしゃいましたらお答いただきたいのですが。

今日お話伺って新潟大学の学生が活動に参加いただいたというお話もございましたし、高校生、先ほどの事例報告の中にも高校生に、山梨県南アルプス市だったでしょうか、ご参加いただいているという話がありましたが、できれば高校、場合によっては中学生も含めて若い学生の方々にその交通に対して活動をしていただき、そういう中でボランティアの必要性みたいなものを感じていただき、それができたら社会人になっても、お勤めやお仕事をもっても続いていくような。と言うのもやっぱり、コロナの影響もあって、オンラインで仕事をする機会があると、比較的通勤時間とかそういうのが少なくなりますし、地域に対する関心ってすごく高まると思うのです。皆さんがこう我が町をいい町にしたいという気持ちが強くなってくると、これはボランティア活動に若い方々にご参加いただくいいチャンスが到来したと言えるのではないかと。オンラインで仕事をしているとどうしても Face to Face の人間関係をそこでは得られないものですから、地域のボランティア活動っていうのは、まさに 2 つの地域に対していい町にするという、それから Face to Face で一緒に参加していただいて活動するという両面が得られるので、そういう意味では、非常に若い人に何かいい工夫があれば参加していただく機会っていうのは結構あるのではじゃないかなと。ある意味ではチャンスの時期に今来ているという風に思ったりしています。

後ほど講評の時間をいただいて、いろんな県の意見を伺いながら、楽しみながらというご報告がずいぶんあったのですね。村山先生のお話にもあったし。長野県の報告にも楽しくっていうのは非常に重視しているのだというお話もあって、そんなことでこう楽しくっていう部分がもう少しボランティア活動の中に導入されたら、もしかしたら、もっともっと新しい会員を増やしていける可能性があるのではないかなと思ったのですが、その

点については後ほど講評の中で補足をしたいと思っていますが。いかがでしょうか。何かその新入会員に入っていただくための工夫など、何か上手い案があったら、こんなことやっているよと簡単なことでも結構ですので、ご紹介いただけるといいなと思っていますが、いかがでしょう。

●：企業にも賛成していただかなきゃいけない部分になると思うのですが、例えばボランティア休暇として現役の人に、例えば春と秋の全国交通安全運動期間中に、10 日間ありますけれども、そのうち何日かをボランティア休暇ということで、企業から休暇を取れるというような発想も今後やっぱり考えていかなきゃいけないと思うのですよね。これは行政や政治の問題になってきちゃうと思うので、なかなか難しい面はあるのですけれども、いかがでしょう。

鈴木先生：大変素晴らしいご提案いただいたと思います。実は私は交通社会学という領域の専門ですが、もともとは産業社会学といい、職場の人間関係とかなんかを研究していたのですね。そんなこともあって、ボランティア休暇というのを実施している会社ってたくさんあるのです。だから、まさにおっしゃるようなボランティア休暇を利用して地域のボランティア活動に参加いただいて活性化していくというのは、常時ずっとは難しいと思うのですけれども、ボランティア休暇を利用される方が次々に出てくれば継続性もあると思います。ただ、一番問題だと思うのは、企業の経営者や人事の方々の発想なのですが、ボランティア休暇は作ってもそのボランティア休暇はその地域に対する貢献で、会社から見たら従業員に給料払ってボランティア休暇与えているのだから、これは会社にとってはある意味支出なのだという風に思っている経営者の方がほとんどなのですよ。そのように思っているうちにはせっかくボランティア休暇制度は活きてこないと思うのですよ。だけど私は今日私の話にも少しある意味含まれているのですが、ボランティア休暇で従業員の方がボランティア休暇で参加すると、ボランティアをやることに対してものすごい関心を持つことで、従業員の交通安全教育を社内でお金たくさん出して講師を呼んできてお金を使って研修をするより、ボランティア休暇を与えてボランティアでやってもらう方がずっと交通安全教育に動機付けられる。

実は、横にそれた話をして申し訳ないのですけども、実際に自分が行動している場、参加体験型の交通安全教育のきっかけになった一つの出来事ですが、県警さんが始めたのかな、重大事故を起こした方の特別講習の話を、教室で話を聞かせるのではなく、シートベルト着用しているかどうかということを警察官と一緒に、町に出ていただいて、着用していない運転者がいたら警察官が止めて、受講生につまり重大事故を起こしたその方々がしてない人にシートベルトの呼びかけをしていただく。そういうことを最初やられたのだそうですね。これはすごい効果があって、教室で交通安全の勉強をするよりも、街に出て自分が相手に対してシートベルト着用を指導することで、その方が交通安全に向けて動機づけることができる。だから会社のボランティア休暇もボランティア休暇を使ってボランティアをするっていうことは、実は会社にとっては支出ではなくて収入なのだと。つまりそのことによって、事故が減って、会社が余計な支出をしないで済む非常に大事なポイントだという発想を、それこそ皆さん方が会社に呼びかけて趣旨を説得していただくと、今のご提案素晴らしいご提案だと思うのですが、若いボランティアの方々に参加いただくいいチャンスになるのではないかと、私は感じました。

私ばかり話してしまって申し訳ないのですが、あと 5、6 分になってしまいましたけれども、いかがでしょうか。ほかのご質問がございましたら頂戴したいと思います。どうぞご遠慮なくいかがですか。

今日お話を伺いながら三世代の交流をやっていただいている茨城県は、とりわけ三世代交流のお話を中心にご報告していただいたのですが、多くの県は年齢でこう対象を絞って、子どもの教育という形で対象を絞った教育、これも大変効果あると思います。その世代を一緒に交流しながら教育するということを、茨城県か

らご報告いただいたのですが、もしお時間あったら世代間交流でやることの、これは内閣府さんがまさにこのご提案をしていただいたのですが、このことによる成果や効果のお話をもう少ししていただけるとありがたいかなと思っていますが、ご発言して頂きたいと思います。

●：三世代交流型ということなのですけれども、世代間で一緒に学ぶことによって、例えば、園児の方、小さい方の目線に立っても一緒に考えることができる。高齢者の目線に立っても一緒に考えることができるということで、地域全体で交通安全運動を実施していく、地域の目で見守っていくっていう点で、三世代で学ぶということに意義があると思います。

鈴木先生：ありがとうございます。私も三世代交流の全国交通安全母の会が中心になって内閣府さんから委託をされた事業に参加させていただいていて、ずいぶん色んな現場にお邪魔しているのですけれども、やっぱり三世代交流の場で一番私がすごいな、面白いなと思いましたのは、お年寄りが一生懸命お子さん達ために注意をする。お子さん達がお年寄りのために、この間見ていたら、どこかのおじいちゃんはこんな危ない行動していたので、こういうことをしない方がいいよ、なんてあの発言をされることは非常に有効なことで、やっぱりその子供達の為に安全を呼び掛けた、先ほどのネイバーフッドウォッチのように子供達の為に役割を演ずることで、実は一番得するというか、一番効果があるのは自分で、相手の立場に立って発言することが、その自分自身の安全性を高める効果がすごくあるので、ぜひ、大事な一つのポイントになることじゃないかなと考えたりしております。大変ご質問、質疑、意見交換といい、大変いい時間を取らせていただいたと感じております。それでは意見交換の時間を終わらせていただきます。

■講評

意見交換の中で私がかなりおしゃべりをしてしまって申し訳ないと思っているのですが、今日は午前中、村山先生のお話を伺い、午後は私から高齢者のことで話をさせていただき、その後の各県の報告は大変素晴らしいということで、意見交換も大変有意義な意見交換、企業に働きかける、企業ではボランティア休暇もあることも一つの方法として勧誘してみたらどうかと、先ほども話したように、地域に対する関心は皆さん高まっていると思うし、そのような意味でいい提案を頂いたと思っています。先ほど少し触れたことですが、若い方々にご参加いただくのにはどうしても楽しく参加していただくという、その楽しくという部分がすごく大事な部分じゃないかなと思っています。楽しくというと、遊びは楽しいですよね？　遊びは何かということを今日の一つのまとめの話として皆さんと一緒に考えたいと思います。

遊びというのは真面目に運転しなくてはいけない、真面目に交通行動をしなければならない、これはよく言われます。真面目こそが交通安全の基本だと。遊び半分に運転するなんてとんでもない、遊び半分、遊びは真面目の逆に対極にあるものとして考えられるような傾向が一般的にあると思うが、実はそうじゃないと思います。遊びを含んだ真面目、遊びながら、遊びを含んで実は真面目に行動するというのが実は一番重要なポイントなんじゃないかなと。これこそが若い方々にボランティア活動に参加いただく、もしかしたら一つの重要なポイントになると思っています。なぜそんなことを申し上げるかというと、我々が遊ぶときは厳格なルールの中で遊んでいます。トランプをする時にも厳格なルールがあります。サッカーするときもものすごく厳密なルールがあります。ルールなくして成り立たないです。変な話をしますが、反社会的な今本当に強盗事件などが起きて大変な困ったものだと思いますが、アルバイトでなんとか子になって、鍵を破って侵入して、とんでもない連中だと思うのですけれども、彼らが遊ぶとき、麻雀をやるとき、トランプをやるとき、またはサッカーをやるとき、全部ルールを守っています。どんな人でもルールを守らなければ遊べない。遊びというのはある意

味ではルールを厳格に守る行為である、交通行動と同じなのです。交通でもルールを守らなければいけない。そんなことで私はその遊び性というのはものすごく大事なポイントである。

時間もあまりありませんので、知っている方も多いと思うのですが、ロジェ・カイヨワというフランスの社会学者が『遊びと人間』という本を書いています。翻訳も出ております、簡単に読める本なので買って読んでいただくことも可能かと思いますが、ロジェ・カイヨワが『遊びと人間』の中で、ルールのある活動であるロジェ・カイヨワはこの本の中で書いているのですが、実は遊びは 4 つの要素であると言っているのですね。人の 4 つの要素 1 つはアゴーン、2 番目はアレア、3 番目はミミクリー、4 番目はイリンクス。

アゴーンが何かというとアゴーンはギリシャ語で競技・競争のことを言います。つまり、遊びの大変大事な要素の 1 つは競い合うことだ。スポーツだとかゲームもそうですけど、みんなその競い合いを楽しむ。これが遊びの 1 つの要素だった。

アレアというのはラテン語で賭けのことです。宝くじの賭けもそうです。ああいう偶然性、幸運な偶然に起こった幸運を楽しむ。これはあのアゴーンの腕の、要するに運の競い合い運を楽しむ。これが遊びの第 2 の要素で、これを母体、中心にした遊びはたくさんありますよね。先ほど言ったように賭けもそうだし、麻雀なんかはどんないい牌が来るかとか、ツモがどんなにいいかとか、これはみんな偶然なのですね。それを楽しむわけです。

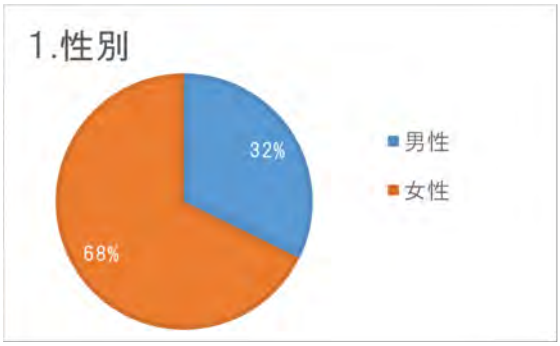
それからあの 3 番目のミミクリーです。これ実は英語でモノマネのことを言います。何かというと説明しにくいのですけど、自分が生きている現実とは違うもう1つの別の現実を味わう、これがミミクリーです。自分の現実とは違うもう1つの現実を味わう。ですから、私どもは映画を観たり、演劇を観たり、私、あの寅さん映画好きなのです。僕は寅さんができないのですけど、映画の中では寅さんになりきれるのですね。ですから、自分の世界とは違うもう 1 つの世界がある。つまり、例えば子ども達がままごと遊びをする。子ども達はお母さんになれない、お父さんになれないのだけど、お父さんの世界を味わう、お母さんの世界を味わう。ミニチュアの汽車とか自動車を集めて楽しんでいる大人もみんなそうです。その現物は持てないけど、ミニチュアを持つことによってそれを持っているような気分になる。それを楽しむ。これがミミクリーなのです。

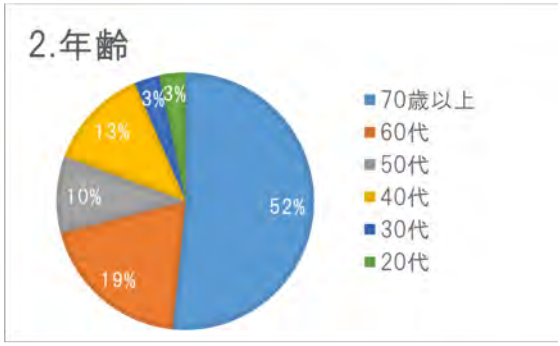
イリンクスはギリシャ語で渦巻きのことです、渦巻き、めまい状態です。つまり、ある種のジェットコースターに乗ったり、ブランコに乗ったりと本当に自分の心理的な陶酔状態あるいは身体的な陶酔状態でそういう陶酔状態を元にした遊びが、このイリンクスを元にした遊びです。さっき麻雀のことを言いましたけど、麻雀というのは実はアゴーンをも持っているし、アレアも持っているし、ミミクリーも持っているし、イリンクスも持っているので、アレアというのはさっきの最初の配牌とかツモの幸運を味わう。それから麻雀はすごく綺麗で紙の麻雀を昔やったことがありますが、非常にあの綺麗な盤の上で綺麗な牌を使って楽しむ。これが1つのミミクリーの世界です。それから、イリンクスというのはそれこそ紙麻雀は全然面白くない。やっぱりガチャガチャガチャガチャみんな喧騒の中でやる。あれが楽しい。みんな遊びというのですか、そういう要素が複雑に絡まっている。

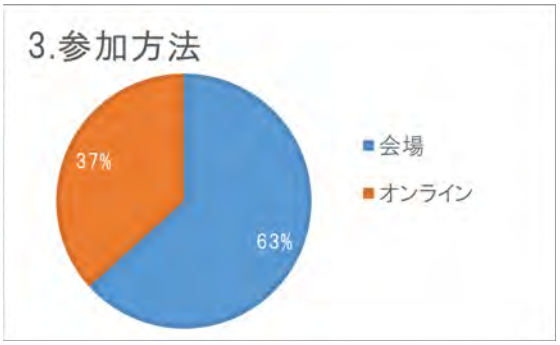
この遊び的要素を安全に向けてなんとか利用できないか。これを皆さんがもし工夫いただいたら、これは素晴らしい、若い方に後継者に入っていただく、そういう可能性がここから出てくるのではないかというふうに思うのです。1つだけ、時間があと 2、3 分ありますのでご紹介します。アレアは競い合い。これはスピードの出す競い合いをされたらたまったものではありません。事故に通じますけども、安全運転を基にした競い合いを、これを材料に交通安全の展開ができないかということを昔考えたことがあります。この交通安全の競い合いをするには、やっぱり何か物差しが必要だから、この物差しを何か考えてほしいと警察庁さんと一緒に共同

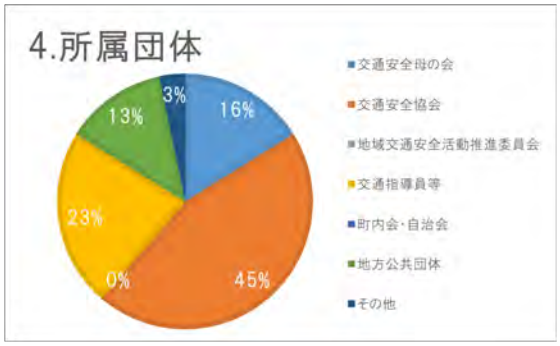
研究しながら、じゃあその物差しを、誰がどこまで高いところまで行ったかということを測る物差しを考えましょうということで生まれたのが SD カードです。1年経つと1年の SD カード、10 年経つと金のゴールドの SD カードに。SD カードを普及すればみんなが競い合う、安全運転を競い合う一つの根拠というか物差しになるではないか。実はそれと 5 年免許のゴールド免許を導入させていただいたのもそんなきっかけからなのですね。ですから、我々がもうちょっと、私はもう高齢者でなかなか頭が働かないものですから、皆さん若い頭でこの遊び性、イリンクスというのはなかなか安全に向けては難しいような気もするのですけども、安全に向けてこんな遊びの要素というのを少し活動の中に入れ込んでいくと、もしかしたらあの大変有効なことになるのではないかなと、そんなことを考えながら今日皆さん方のお話を伺ってまいりました。実はコーディネーターとして、向いてないかな、なんていう風に思っております。なかなかうまくまとめることができなくて大変ご迷惑かけたと思い出ますけども、今日私にとっては朝からずっと参加させていただいて、大変いい知識と、皆さんのいろんな形でのご意欲あるご発言を伺って大変勉強になりました。大変いい時間を過ごさせていただいて、感謝しております。ありがとうございました。

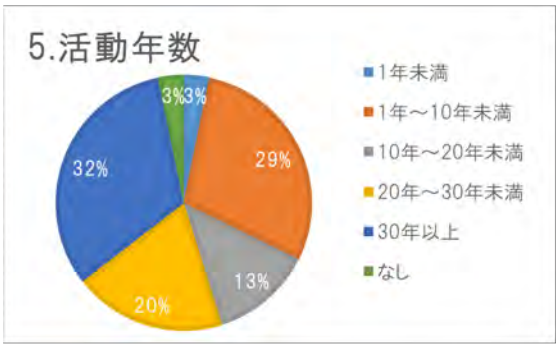
3.アンケート集計結果

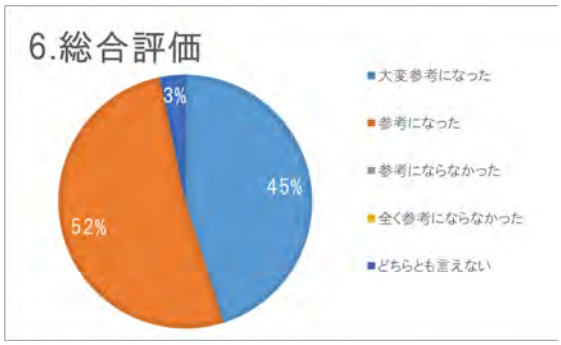

1.性別
32%
68%
男性
女性

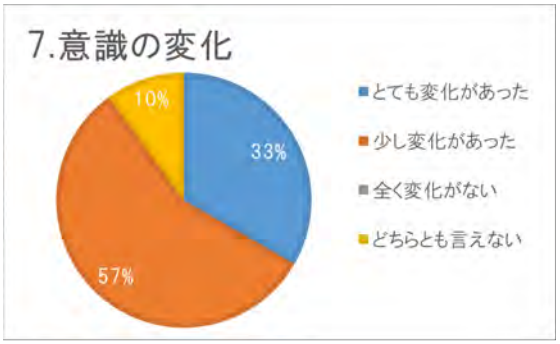

2.年齢
52%
19%
10%
13%
3%
3%
70歳以上
60代
50代
40代
30代
20代

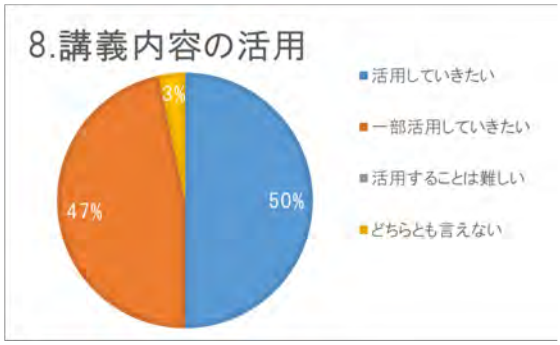

3.参加方法
37%
63%
会場
オンライン

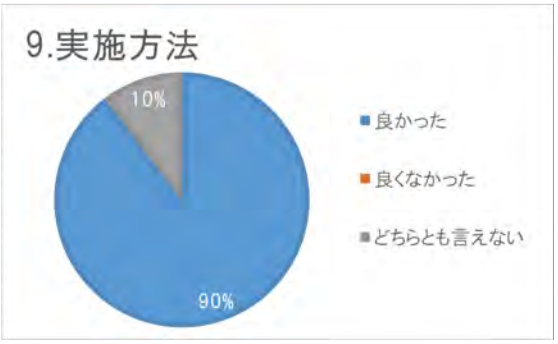

4.所属団体
16%
45%
0%
23%
13%
3%
交通安全母の会
交通安全協会
地域交通安全活動推進委員会
交通指導員等
町内会・自治会
地方公共団体
その他

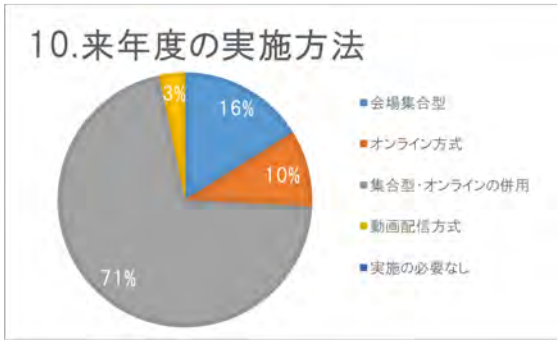

5.活動年数
3%
3%
29%
13%
20%
32%
1年未満
1年～10年未満
10年～20年未満
20年～30年未満
30年以上
なし


6.総合評価
3%
45%
52%
大変参考になった
参考になった
参考にならなかった
全く参考にならなかった
どちらとも言えない


7.意識の変化
10%
33%
57%
とても変化があった
少し変化があった
全く変化がない
どちらとも言えない


8.講義内容の活用
3%
50%
47%
活用していきたい
一部活用していきたい
活用することは難しい
どちらとも言えない


9.実施方法
10%
90%
良かった
良くなかった
どちらとも言えない


10.来年度の実施方法
3%
16%
10%
71%
会場集合型
オンライン方式
集合型・オンラインの併用
動画配信方式
実施の必要なし

問11.今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について
・指導方法について
・小学生向けの自転車交通安全教室の実施事例
・中高生の自転車事故防止施策の紹介
・多くの方が参加出来るような方式をとって欲しい
・子供の見守り等の各地域での活動を取り入れてもらいたい
・安全教育の現場で使える実践例が見たい
・行政も含めて高齢化の中でどんな活動が有効かを考えていく必要がある
・自転車など便利な乗り物の活動報告
・新しい人を集める工夫や成功例があればお聞きしたい
・指導人員の確保や 3 世代の交通安全教室について
・自転車の法改正より、自転車事故について様々な問題点が発生している状況の話
・今回の奥西先生の講演は分かり易く、熱が籠っていてとても勉強になったのでより多くの方々に聞かせたい

問12.本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について
・本講習のように他の自治体や団体における取り組みを知る事が出来ると良いものを導入していけるので、
このような機会が良いと思います
・現在の活動では出来ない権限等も検討してもらいたい
・交通指導員が不足するなかで、資機材の活用を大いにすべきではないか
・他県の活動を知る交流会や報告会があると参考になります
・よく分からない

問13. その他、ご意見ご要望ご感想など
・事例発表の時間と、意見交換の時間をもう少し長めに取ってもらえると良かった
・少人数であるなら、昼食のお弁当の準備(有料で)をして頂くとありがたい
・とても有意義な時間でした
・オンライン参加ですが、手元の資料と講師の方の話の流れが違い探しながらになってしまったので
流れが同じだと有難い
・交通安全運動のチラシは各県で作成しているので、内閣府のチラシはあまり活用の機会がない
・参加者の問い合わせ先や名簿一覧が入っていると、その後の情報交換等に活用できると思いました
・大変勉強になりました
・レジュメのパワーポイントの配列順と、話の順とが合っていないので、戸惑った
・各団体と一同に会したものが必要ではないかと思う
・まだまだ未熟ではありますが、この先も頑張って参りたいと思いました
・この様な講習会は定期的に開催し、活動の情報共有できればと思います
・子供や幼児への交通安全に関する活動の大切さと係わりを痛感しました
・参加・体験型の活動の大切さを実感しました
・街頭活動の効果に疑問を持っていたが、必要性があると思いました

・素敵な会場に来られて楽しかったので、集合型・オンライン併用がいいと思いましたが、動画配信も都合良い時に視聴できるのが魅力だと思いました
・内閣府の HP など、QR コードにして頂くとすぐに読めるので、有難いと思いました
・各交通ボランティアの団体、役割を知りたい
・お 2 人の講師の方のお話は本当に参考になりました
・これだけ有意義な講習会を少人数で行うのはもったいないので、もっと大きな会場で実施して宜しいのではないか
・他県の取り組みや、活動事例を知る良い機会になりました
・今回、久し振りに参加致しましたが、村山先生の講活、交通安全活動の件だけでなく、他方面の活動にも繋がる講活で大変参考になりました
・参加人数の規模がちょうどよく、集中して講座や報告が聞けた

4.写真

来賓挨拶　東京都

講演　鈴木先生

講演　村山先生

会場の様子

活動事例発表の様子

意見交換会